

和泉葛城山の昆虫（2015-2016 年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

和泉葛城山の山頂付近の昆虫相を明らかにするため、2008 年に予備的な調査を開始し、2009 年以降は 4 月から 12 月まで毎月 1 回の割合で定期的な調査を行ってきた（岩崎、2017b など）。2015-2016 年度も昆虫相全般を対象にした調査を行ったので、ここに報告する。

調査方法

2015 年と 2016 年の 4 月から 12 月にかけて、毎月 1 回、雨でない日を選んで調査を行った。山頂付近（標高 820～858 m：メッシュコード 51354314-15：図 1、2）を約 3 時間かけて歩き、目視や鳴き声等によって種の確認を行った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、同定が困難な種や自然遊学館に標本のない種等を採集し、当館の所蔵標本とした。今回の調査結果は、速報としてはすでに当館の季刊誌「自然遊学館だより」に報告した（岩崎、2016、2017a）。

結果および考察

両年の調査で確認された昆虫を、大阪府レッドリストの指定種、貝塚市内での分布が和泉葛城山の山頂付近にほぼ限られる山地性の種、および自然遊学館に標本がなかった種を中心に、それぞれの目ごとに簡単な解説を行った。また、必要に応じて、当館がこれまでに収集・所蔵してきた貝塚市産昆虫標本のデータとの比較を行った。

トンボ目

大阪府レッドリスト種として、2015 年 8 月 6 日、9 月 2 日、および 2016 年 8 月 4 日にミヤマアカネ（図 3）、2016 年 9 月 15 日にオオルリボシヤンマを確認した。いずれもランクは準絶滅危惧である。ミヤマアカネは 2010 年以降の確認、オオルリボシヤンマは山頂の調査としては初記録である（表 9 参照）。ただし当館には、後者の山頂付近の標本として、1999 年、2005 年、2011 年の 3 個体が所蔵されている。

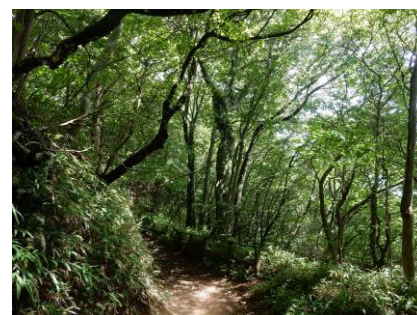


図 1. 山頂付近の登山道 2016. 7. 14



図 2. 山頂付近のブナ 2016. 11. 10



図 3. ミヤマアカネ 2016. 8. 4

バッタ目

大阪府レッドリスト種としては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴを2015年の7月8日と2016年の7月14日に、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキを2015年8月6日と11月5日、および2016年8月4日と9月15日に確認した(表1、2、図4)。両種とも2008年の調査開始以来、ほぼ毎年確認されていて、個体群は安定的に保たれていると考えられる(表9参照)。

その他、チビクチキウマ、エゾツユムシ(図5)、ホソクビツユムシ(図6)、ヤマトフキバッタ、およびヒロバネヒナバッタは、貝塚市内では、和泉葛城山の山頂付近に分布がほぼ限られる種である。ホソクビツユムシは、これまでの調査でそれほど多産している種という認識はなかったが、2016年7月14日に、写真の個体以外にも30個体ほどの鳴き声を確認した。ヤマトフキバッタとヒロバネヒナバッタは、山頂付近ではふつうに見られる種である。2016年10月6日に確認されたクチキウマ属はオス、ウマオイ属はメスであったため、種まで同定できなかった。

表1. 和泉葛城山山頂付近において2015年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 9日	5月 14日	6月 10日	7月 8日	8月 6日	9月 2日	10月 8日	11月 5日	12月 2日
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>						△		△		
カマドウマ科	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>				△						
	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>						○				
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△	△	△	○					
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>							○			
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>					○					
ツユムシ科	エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>					○					
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					○					○
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>								○	○	
ヒバリモドキ科	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>					○			○	○	
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>							○	○		
	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>								○		
オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>										死体
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>		△	△	△○	○	○				
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>				○						
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>					○	○				
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>			○	○	○	○	○	○		
	ショウリウウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>							△			
ヒシバッタ科	モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>		○	○	○						

表2. 和泉葛城山山頂付近において2016年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 26日	5月 19日	6月 21日	7月 14日	8月 4日	9月 15日	10月 6日	11月 10日	12月 6日
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>			△							
カマドウマ科	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>					△					
	クチキウマ属	<i>Anoplophilus sp.</i>								○		
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△		○						
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>						○				
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>							○			
	ウマオイ属	<i>Hexacentrus sp.</i>										○
ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>				○	○					
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					○	○				
コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○	○		
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>							○	○		
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>		△	△	△	○	○	○	○		
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>				○						
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>				△	○					
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>			○	○	○	○	○	○		
ヒシバッタ科	モリヒシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>										○



図4. ヒトコブササキリモドキ
2016. 9. 15



図5. エゾツユムシ
2015. 8. 6



図6. ホソクビツユムシ
2016. 7. 14

カメムシ目

セミ科は、2015年に8種、2016年に9種を鳴き声で確認した(表3、4)。このうち、エゾゼミとハルゼミは大阪府レッドリストにおいて準絶滅危惧に指定されている。2016年7月14日に、エゾゼミ、ハルゼミ、ヒグラシの鳴き声を聞くことができたのは、面白い組み合わせかもしれない。エゾゼミとハルゼミは、2008年以降、毎年確認している(表9参照)。2016年8月4日に確認したクマゼミは、2008年以降の山頂付近における調査で確認していなかったが、当館には、1995年の羽化殻の標本が1個体所蔵されている。

同翅類の注目種として、2016年7月14日にテングアワフキを確認した。また、2016年7月14日に確認したオビカワウンカは、これまで当館に標本がなかった種である。

表3. 和泉葛城山山頂付近において2015年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「鳴」印は、鳴き声での確認を示している。

種	学名	調査日	4月 9日	5月 14日	6月 10日	7月 8日	8月 6日	9月 2日	10月 8日	11月 5日	12月 2日
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>						鳴	鳴			
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						鳴				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>							鳴			
ニイニイゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>						鳴	鳴			
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							鳴			
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>			鳴	鳴	鳴					
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>						鳴				
チツチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>							鳴			

表4. 和泉葛城山山頂付近において2016年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「鳴」印は、鳴き声での確認を示している。

種	学名	調査日	4月 26日	5月 19日	6月 21日	7月 14日	8月 4日	9月 15日	10月 6日	11月 10日	12月 6日
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>					鳴	鳴	鳴			
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						鳴				
クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>						鳴				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>						鳴	鳴			
ニイニイゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>					鳴	鳴				
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							鳴			
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>			鳴	鳴	鳴					
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>					鳴	鳴				
チツチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>							鳴			

山頂の調査としては異色な種として、駐車場横にできた水たまりにおいて、準絶滅危惧のヤスマツアメンボを、2016年の4月26日、5月19日、6月21日の3ヶ月間連続して確認した(図7)。同じ水たまりで確認したヒメアメンボ(4月26日)とコウチュウ目のマメゲンゴロウ(5月19日、6月21日)も、貝塚市内における最高標高での記録となった。



図7. ヤスマツアメンボ
2016. 5. 19

2015年と2016年に確認したツノカメムシ科、カメムシ科、およびクヌギカメムシ科のリストを、それぞれ表5と表6に示した。カメムシ亜目では、山地性のカメムシ科として注目しているツノアオカメムシ、トゲカメムシ、ミヤマカメムシ、トホシカメムシを確認されたのに対して、ヨツボシカメムシは、2010年以降確認されていない(表9参照)。

表5. 和泉葛城山山頂付近において2015年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				9日	14日	10日	8日	6日	2日	8日	5日	2日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>			○	○	○	○	○	○	○	○
	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forcifera</i>										○
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>				○						
	ベニモンツノカメムシ	<i>Elasmostethus humeralis</i>						○				
カメムシ科	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>						○				
	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>								△		○
	ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>					○					
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>				△	○					
	ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>				○						
	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>						○	○			
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>						○		○		
	クチブトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>										○
	クヌギカメムシ科	ナシカメムシ	<i>Urochela luteovariva</i>									○

表6. 和泉葛城山山頂付近において2016年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				26日	19日	21日	14日	4日	15日	6日	10日	6日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>		○		○				○	○	○
	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forcifera</i>						○	○	○		
	ハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma labiduroides</i>							○			
	モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>							○	○		
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>					○				○	
カメムシ科	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>					○					
	ウシカメムシ	<i>Alcimocoris japonensis</i>							○			
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>							△	○		
	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>										△

コウチュウ目

大阪府レッドリスト種では、準絶滅危惧のセダカ TENTOUダマシを2015年7月8日と2016年9月15日に、セダカコブヤハズカミキリを2016年8月4日に、シロジュウゴホシ TENTOU(図8)を2016年11月10日に確認した。シロジュウゴホシ TENTOUは当館に標本がなく、貝塚市産 TENTOUムシ科で30種目の記録となった。

当館に標本がなかった種は、2015年がクロアシナガコガネ(5月14日)、ケブカヒラタゴミムシ

(6月10日)、クビカクシゴミムシダマシ(6月10日)、コヤマトヒゲブトアリヅカムシ(10月8日)、2016年がオオキイロマルノミハムシ(9月15日)、タテスジゴマフカミキリ(10月6日)であった。

注目種としては、ハスジゾウムシが2008年以降確認されていない。その他、マイマイカブリは2014年まで確認されてこなかったが、2015年8月6日と2016年9月15日に確認し、後者は幼虫がギョリキマイマイを捕食中であった。当館には2012年の幼虫の標本が所蔵されている。



図8. シロジウゴホシテントウ
2016.11.10

チョウ目

2015年に確認したチョウ類は29種、2016年は31種であった(表7、8)。大阪府レッドリスト種として、2015年にスミナガシ(図9)、アオバセセリ(図10)、ホソバセセリ、2016年にアオバセセリ、ブナアオシャチホコ(図11)を確認した。ランクはいずれも準絶滅危惧である。アオバセセリは2008年の調査開始以降初めての記録であるが、当館には1992年以降の山頂の標本が10個体ほど所蔵されている。ブナアオシャチホコも2016年が2008年以降初めての確認となったが、1999年に2個体、2001年に1個体の標本が所蔵されている。

表7. 和泉葛城山山頂付近において2015年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月 9日	5月 14日	6月 10日	7月 8日	8月 6日	9月 2日	10月 8日	11月 5日	12月 2日
アゲハチョウ科	クローアゲハ	<i>Papilio protenor demetrius</i>				○						
	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>						○		△		
	カラスアゲハ	<i>Papilio bianor dehaanii</i>						○				
シロチョウ科	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>					○					
	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○			
タテハチョウ科	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>				○			○		○	
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>					○	○				
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>						○				
	ヒメジャノメ	<i>Mycalasis gotama fulginia</i>						○				
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>				○	○	○	○	○		
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>						○	○			
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>					○	○	○			
	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>					○					
	イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla japonica</i>						○				
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana strigosa</i>							○			
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>						○		○		
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>						○				○
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>						○				○
	スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>							○			
	アサギマダラ	<i>Parantica sita niponica</i>						○	○			○
シジミチョウ科	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>				○	○*	○	○		○	○
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>						○				
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>							○			
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>						○			○	
セセリチョウ科	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>						○				
	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>						○				
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>						○				
	チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>						○	○			
	アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>						○				

* 6月10日のテングチョウは、100個体以上が群飛していた。

表8. 和泉葛城山山頂付近において2016年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
				26日	19日	21日	14日	4日	15日	6日	10日	6日	
アゲハチョウ科	オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>			○	△		○					
	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>					○	○					
	カラスアゲハ	<i>Papilio bianor dehaanii</i>			○								
	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous alcinous</i>						○					
	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>			○								
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○				
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina mandarina</i>				○	○	○	○				
タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>									○		
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>				○	○						
シジミチョウ科	クロノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i>							○				
	ヒメジャノメ	<i>Mycalasis gotama fulginia</i>				○							
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>			○	○		○					
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>				○	○	○	○	○			
	コムシジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>			○			○	○				
	イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla japonica</i>						○					
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana strigosa</i>					○						
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				○							
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>							○	○			
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>									○		
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>		○									
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>							○	○			
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○	○	○	○		○	○			
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>						○	○	○	○		
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>					○						
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>					○				○		
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>						○	○				
	ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>					○						
	セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>						○				
		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>									○	
コチャバネセセリ		<i>Thoressa varia</i>					○	○					
アオバセセリ		<i>Choaspes benjaminii japonica</i>						○					



図9. スミナガシ
2015. 8. 6



図10. アオバセセリ
2015. 5. 14



図11. ブナアオシャチホコ
2016. 4. 26

当館に標本がなかった種は、2015年がベニスジエダシャク（6月10日）、ギンモンカギバ（9月2日）、ツマジロシャチホコ、9月2日、写真のみ）、2016年がウスグロフトメイガ（7月14日）、プライヤエグリシャチホコ（7月14日）であった。

大阪府レッドリスト種と注目種

2008年の調査開始以降、今回の調査で初めて確認した大阪府レッドリスト種は、準絶滅危惧のオオルリボシヤンマ、ヤスマツアメンボ、シロジュウゴホシテントウ、ブナアオシャチホコの4種であった（表9）。前述のとおり、オオルリボシヤンマとブナアオシャチホコに関しては、当調査地の以前の標本が当館に所蔵されている。

表9. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2016年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種

ランク	目	科	種	学名	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	
絶滅危惧Ⅰ類	バッタ目	マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscirtus japonicus</i>	○									
絶滅危惧Ⅱ類	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			セクロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>				○						
準絶滅危惧	カメムシ目	ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tenu</i>	○		○				○			
			コウチュウ目	コガネムシ科	ムネアカセンテコガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>						○		
	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>				○	○					
			ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>			○							
	トンボ目	ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	<i>Aeschna nigroflava</i>									○	
			ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			○						○	○
	バッタ目	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
			カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報不足	コウチュウ目	アメンボ科	エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>									
		クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	○			○	○					
			セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	○
		テントウムシ科	シロジュウゴホシテントウ	<i>Calvia quindecimguttata</i>										○
			カミキリムシ科	セダカコブヤハズカミキリ	<i>Parechthistatus gibber gibber</i>							○		○
		チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>						○			
				スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>					○				○
		セセリチョウ科	ミスジチョウ	<i>Neptis philys excellens</i>									○	
			アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>										○
		ヤママユガ科	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>				○	○	○	○	○	○	○
			エソヨツメ	<i>Agria tau microtau</i>						○				
シャチホコガ科		フナアオシャチホコ	<i>Syntypistis punctatella</i>										○	
		コメツキムシ科	トラフコメツキ	<i>Selatosomus onerosus</i>					○					
ハチ目		ミツバチ科	ルリツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>						○				
			クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	○	○		○	○					

それに対して、ほぼ毎年確認しているものとしては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミがあげられる。確認が途絶えている種としては、2008年が最後の確認年になっているカヤコオロギ、2010年のムカシトンボ、2011年のトラフコメツキなどがあげられるが、このうちムカシトンボは近木川上流で幼虫が比較的容易に確認できる。

山地性や、貝塚市内でこれまでの記録が和泉葛城山の山頂付近に限られるという種、あるいは2014年の大阪府レッドリストの改訂においてランク外とされた種などを注目種とし、それらの確認年を表10に示した。月1回という頻度なので、ある年に確認されていないことが本当に生息していないことを正確に示しているとは言い難いが、継続して調査していくことで何らかの傾向はつかめるかもしれない。

表10. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2016年にかけて行われた調査で確認された注目種

目	科	種	学名	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
バッタ目	カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>					○	○	○	○	
		キリギリス科	ヒメクササキ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○	○	○	○	
	ツユムシ科	エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>				○				○	
		ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>				○	○				○
ナナフシ目	ナナフシ科	ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>		○	○	○	○	○	○		
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>					○	○	○		
カメムシ目	アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	○					○	○		○
		オオトビサンガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○	○	○	○			○	
	サシガメ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○				○	○	○
		エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○			○		
	カメムシ科	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○	○	○	○	○	○		○
		ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ミヤマカメムシ	ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>		○			○				○
		トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○			○			○	○
	ヨツボシカメムシ	ヨツボシカメムシ	<i>Homalogonia obtusa</i>			○						
		アカアシクワガタ	<i>Nipponodorcus rubrofemoratus</i>						○			
コウチュウ目	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiferemoratus</i>	○	○			○				
		ハスジゾウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○								
ハエ目	ハナアブ科	ニトベッコウハナアブ	<i>Volucella linearis</i>								○	
チョウ目	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				○	○	○	○	○	○
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハチ目	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	<i>Caligula jonassii jonassii</i>				○					
		スズメバチ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespa shidai</i>	○	○				○	○	○
ハチ目	スズメバチ科	キオビホオナガスズメバチ	<i>Dolichovespula media</i>						○	○		
		オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>			○				○		

その他

2015年では、4月9日のケフカオナシカワゲラ（図12）とヒラタコエグリトビケラ、および8月6日のニトベベッコウハナアブ、2016年では、5月19日のホソマダラシリアゲ、6月21日のキゴシガガンボ、7月14日のクロベッコウハナアブが、当館に標本がない種であった。

その他の注目種としては、2015年8月6日にニホントビナナフシ幼虫、2015年12月2日にシダクロスズメバチを確認した。



図12. ケフカオナシカワゲラ
2015. 4. 9

謝辞

カワゲラ目とトビケラ目の同定をしていただいた森本静子氏、コウチュウ目の同定をチェックしていただいた森康貴氏および澤田義弘氏に謝意を表す。これまでの和泉葛城山の昆虫に関する報告で、クロホシテントウゴミムシダマシとしていたものを、正しくニセクロホシテントウゴミムシダマシとご指摘いただいた中村進氏にも謝意を表す。

引用文献・参考文献

- 岩崎 拓 (2010) 和泉葛城山の昆虫 (2008年度調査) . 貝塚の自然 第12号 : 41-45.
岩崎 拓 (2011) 和泉葛城山の昆虫 (2009年度調査) . 貝塚の自然 第13号 : 88-94.
岩崎 拓 (2012) 和泉葛城山の昆虫 (2010年度調査) . 貝塚の自然 第14号 : 53-58.
岩崎 拓 (2013) 和泉葛城山の昆虫 (2011年度調査) . 貝塚の自然 第15号 : 41-50.
岩崎 拓 (2014) 和泉葛城山の昆虫 (2012年度調査) . 貝塚の自然 第16号 : 29-38.
岩崎 拓 (2016) 和泉葛城山昆虫調査 2015. 自然遊学館だより No. 78 : 7-9.
岩崎 拓 (2017a) 和泉葛城山昆虫調査 2016. 自然遊学館だより No. 82 : 12-15.
岩崎 拓 (2017b) 和泉葛城山の昆虫 (2013-2014年度調査) . 貝塚の自然 第18号 : 55-69.
大阪府 (2014) 「大阪府レッドリスト 2014」, 48pp.

付図

毎月の調査後すぐに、自然遊学館の玄関横の掲示板に、調査結果を速報として貼り出した。それらを付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年4月）

2015年4月9日 天候：晴れ・くもり 調査者1名

昆虫の活動はまだまだといった感じです。チョウ類はまったく見られませんでした。地面には雪が少し残り、フナの雄花と葉芽（右の写真）がたくさん落ちていました。おそらく1週間ほど前の強風が原因だと思います。



コウチュウ目

個体数が多かったのはツブノミハムシで、あとはアカホソアリモドキ、オオクチキムシ、ウスチャジョウカイが確認されました。山頂のウスチャジョウカイは黒化型が多く、薄茶色のタイプは、自然遊学館に標本がありません。写真の右側に写っているのは、ヒノキの落実です。



ウスチャジョウカイ

ハチ目

フナの幹にミカドオオアリがとまっていますが、死んで間もないものでした。暖かくなって活動を始めたら、ここ数日、急に気温が下がり凍死したのかも知れません。その他、ヒメオオソアリ、アメイロアリ、キマダラハナバチの一種を確認しました。



ミカドオオアリ

水生昆虫

山頂で確認されるカワゲラ目は、近くの溪流や沢で羽化したものが、自力か風に乗って移動してきたものだと思います。水生昆虫に詳しい森本静子さんに、ケフカオナシカワゲラと同定していただきました（トビケラ目のヒラタコエグリトビケラも）。



ケフカオナシカワゲラ

鳥

昆虫が少なかったため、鳥の写真を紹介します。個体数が多かったのはウグイスとシジュウカラでしたが、いずれも写真は撮れませんでした。右の写真はヒガラです。シジュウカラに似ていますが、白い胸に黒色のネクタイのような模様が入らない点で、見分けることができます。



ヒガラ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年5月）

2015年5月14日 天候：晴れ・くもり・雨 調査者1名

新緑が美しい季節になりました。フナ林の中に涼しい風が吹き抜けます。ウグイスとシジュウカラがさかんに鳴いていました。いつの間にか、ニリンソウとユキザサは花の盛りが過ぎていました。



チョウ目 チョウ類3種

テングチョウ、アオバセセリ、チャバネセセリの3種を確認しました。アオバセセリの幼虫はアワフキを食べるそうです。2008年の調査開始以降、初めての確認となりました。大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されています。カ類は、成虫3種と幼虫2種を確認しました。



アオバセセリ

コウチュウ目

コウチュウが多い季節になりました。セダカコブヤハズカミキリは後翅が退化して飛べなくなったカミキリムシです（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）。クロアシナガコガネはこれまで自然遊学館に標本がなかった種です。フタホシオオノミハムシは2個体目でした。



セダカコブヤハズカミキリ

ハチ目

マルハナバチの仲間は大型で毛深いので、花粉の媒介に重要な役割を果たします。トラマルハナバチとコムルハナバチの2種を確認しました。トラマルハナバチは口器が長く、蜜源の深い花から吸蜜するそうです（写真はツツジです）。アリ類は馴染みの種を7種確認しました。



トラマルハナバチ

カメムシ目

ハルゼミが鳴き始めていました。今から8月ごろまで鳴き声が聞こえると思います。高い所で鳴いているので、なかなか姿を見ません。ハリカメムシ、セアカツノカメムシ、ムラサキナガカメムシ、フチヒシウンカといった馴染みの種を確認しました。



オオツマキハリカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年6月）

2015年6月10日 天候：晴れ 調査者1名

ウツギの白い花が目立ちます。その蜜を求めて、チョウ、ハナアブ、ハナバチの仲間が多く訪花していました。山頂のトイレ付近で、テングチョウが200個体ほどの群れになって、まさに乱れ飛ぶという感じでした。



チョウ目 チョウ類11種

クロアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、クロヒカゲ、アサマイチモンジ、アカタテハ、キタテハ、ルリタテハ、アサギマダラ、テングチョウ、チャバネセセリの11種のチョウを確認しました。カ類では、キアシドクガ、キンモンガ、マダガのほか、数種の幼虫を確認しました。



キアシドクガ

コウチュウ目

ヨツボシテントウゴミムシダマシ、カシルリオトシブミ、リンゴコフキソウムシ、コアリガタハネカクシなど常連の甲虫がほとんどでした。その中で、ヒメアシナガコガネとキボシルリハムシが、やや見かける頻度が低いものかもしれません（珍しい種ではありません）。



ヒメアシナガコガネ

ハエ目

ウツギの花に多くのハナアブが来ていました。その中には、シロスジベッコウハナアブがやや珍しいかもしれません。写真はコウチュウの餌を捕まえたオオイシアブです。自然遊学館に標本がない種なのに、1枚撮影しただけで逃げられてしまいました。



オオイシアブ

カメムシ目

ハルゼミが10個体ほど鳴いていました。その他、ミヤマアワフキ、セアカツノカメムシ、エサキモンキカメムシ、ミヤマカメムシ、オオツマキハリカメムシなどを確認しました。トゲカメムシはまだ幼虫でした。いずれも山頂で常連のカメムシの仲間です。



トゲカメムシ幼虫

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年7月）

2015年7月8日 天候：くもり 調査者1名

木々の枝葉が残り「緑」は多くなりました。でも花は少なく、樹木ではクマノミズキ、草本ではオカトラノオやウツボグサが目立つ程度です。1週間前に見つけたギンリョウソウ（菌類に寄生する植物）はまだ花が咲いていました。



チョウ目 チョウ類8種

ジャコウアゲハ、スジグロシロチョウ、クロヒカゲ、コムシジ、ミドリヒョウモン、アサギマダラ、テングチョウ、ウラナミシジミの8種のチョウを確認しました。ガ類では、写真のウスギヌカギバのほか、シロテンキノメイガ、クロフシロエダシャク、クビワシャチホコなどを確認しました。



ウスギヌカギバ

バッタ目

ナキヤゴとヒロバネヒナバッタの鳴き声を聞きました。ナキヤゴは幼虫も確認しました。ヤマトフキバッタも一部が成虫になりました。ほか、成虫を確認したのは、ヤセヒシバッタです。ハヤシウマとヤブキリは幼虫を確認しました。



ハヤシウマ幼虫

クウチュウ目

自然遊学館に標本が少ないものとして、セダカテントウダマシとトホシオサソウムシを採集しました。写真のエグリトラカミキリのほか、センチコガネ、リンゴコフキハムシ、ニセクロホシテントウゴムシマダシなど、山頂でお馴染みの種を確認しました。



エグリトラカミキリ

ハチ目

最近の調査で、ブナの倒木にムネアカオオアリが巣を作っているのを確認していました。この日は、遠くから何か光るものが動いているのが見え、近くで見ると、羽根アリの翅だと分かりました。オスとメスが巣立つ時期でした。1,000匹以上は確実にいたと思います。



ムネアカオオアリ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年8月）

2015年8月6日 天候：晴れ 調査者1名

山頂付近にはブナ林のほか、スギヒノキ植林、コナラ二次林などの林があります。二次林では樹液が出ていて、この日は、コクワガタ、スミナガシ（写真）、クロヒカゲなどが来ていました。写真の左側はマイマイカブリです。



チョウ目 チョウ類17種

オナガアゲハ、カラスアゲハ、スジグロシロチョウ、ミドリヒョウモン、イチモンジチョウ、アサギマダラ、テングチョウ、ダイミョウセセリなど、17種のチョウを確認しました。ガ類では、クビワシャチホコ、シロオビドクガ、ククキンウワバなどを確認しました。



ホソバセセリ

バッタ目

大阪府レッドリスト準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキは、今年も健在でした。写真は、山地性のエソツコムシです。貝塚市内では、山頂付近でしか確認されていません。その他、チビチキウマ、ツマグロバッタ、ヒロバネヒナバッタ、ヤマトフキバッタなどを確認しました。



エソツコムシ

カメムシ目

エソゼミ、ニイニゼミ、ミンミンゼミに加えて、ヒグラシが鳴いていました。ベニモンツノカメムシとヒメツノカメムシはそれほど多くない種です。トホシカメムシは木道の手すりで見かけることが多いのですが、この日はウリハダカエデの幹にいました。



トホシカメムシ

トンボ目

ウスバキトンボが群れて飛んでいました。100匹以上は確実にいました。ミヤマアカネのオスはかなり赤く色づいて、この写真を見るかぎり、秋を感じさせますが、山頂でもまだまだ暑くて、調査時には汗ばむほどです。このミヤマアカネも、どこかの里に下りて行くのでしょうか。



ミヤマアカネ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年9月）

2015年9月2日 天候：くもり・晴れ 調査者1名

ブナの根元にトンビマイタケが出ていました。8月18日に高さ5cmほどの出始めを確認していたものです。秋雨が続く中、ツエタケ、タマゴタケ、ハナガサイグチ、オオホウライタケなど、多くのキノコが出ていました。



チョウ目 チョウ類7種

チョウ類は、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、コムシジ、サカハチチョウ、ルリシジミを確認しました。ガ類では、ツマジロシャチホコとギンモンカギバが自然遊学館になかった種ですが、前者は撮影後に逃げられてしまいました。



ツマジロシャチホコ

バッタ目

ヒロバネヒナバッタ、ツマグロバッタ、ヤマトフキバッタが山地性の種で、キリギリス、シバズ、ショウリョウバッタは主に平地に生息する種です。雨が続いて草木が濡れているせいか、バッタ目の出現種数は、この時期にしては、少な目でした。



ヒロバネヒナバッタ

カメムシ目

エソゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、チッチゼミの4種のセミが鳴いていました。その他、ツノアオカメムシ、ツマジロカメムシ幼虫、オオヘリカメムシ幼虫、セアカツノカメムシ、ミヤマアワフキなどの山地性の種を確認しました。



ツノアオカメムシ

ハエ目

ウシアブは、先月よりもかなり数が減って、調査しやすくなりました。山頂のトイレの壁にベッコウガガンボが張り付いていました。その他、ナミヒラタアブ、ナガヒラタアブ、クロヒラタアブ属の一種を確認しましたが、ハナアブ類もやや寂しい結果となりました。



ベッコウガガンボ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年10月）

2015年10月8日 天候：晴れ 調査者1名
 やや寒いくらいで、飛んでいる昆虫も少なく、鳴く虫の
 声もわずかです。まだ紅葉は始まっていません。ブナの立
 ち枯れ木にツキヨタケがびっしり生えていて、キロセマ
 ルケシキスイヤオオキハハネカクシが来ていました。



チョウ目 チョウ類3種
 チョウ類はわずかでした。成虫はクロヒカゲとアカタテ
 ハの2種のみで、その他、サンショウの木でオナガアゲハ
 の幼虫を確認しました。ガ類も少なく、モミヅツマキリエ
 タシヤクと、アキグミの木でアサケモン幼虫を確認し
 ただけでした。



オナガアゲハ幼虫

バッタ目
 姿を見たのはハネナシコロギスの幼虫だけでした。樹上
 からクサヒバリ、草上からカンタン、地面からヒロハネヒ
 ナバッタの鳴き声を聞きましたが、いずれも1~2個体と
 いう寂しさです。その他、駐車場の周囲でシバズとマダ
 ラズが鳴いていました。



ハネナシコロギス幼虫

カメムシ目
 先月は4種のセミが鳴いていたのに、今月はまったく鳴
 き声を聞きませんでした。この時期になると、登山道の木
 柵にセアカツノカメムシが目立ちます。山地性のトホシカ
 メムシとミヤマアワフキを確認しました。トホシカメムシ
 は落葉の色に似ています。



トホシカメムシ

ハエ目
 ハナアブ類は少な目で、オオハナアブとクロヒラタアブ
 属の一種をちらほら見た程度で、詳しく調べないと種類が
 分からないものが数匹いました。写真のシナヒラタヤドリ
 ハエは普通種なのかもしれませんが、自然遊学館の標本で
 は2個体目です。1個体目も山頂付近での採集でした。



シナヒラタヤドリハエ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年11月）

2015年11月5日 天候：晴れ 調査者1名
 暑いくらいの陽気でした。景観全体で紅葉が美しいとい
 うことはありませんが、所々で写真のような紅葉が見られ
 ました。雨が少なくキノコもほとんど見かけません。鳥で
 はアトリの写真を撮ることができました。



チョウ目 チョウ類6種
 キタキチョウ、キタテハ、ルリタテハ、アサギマダラ、
 テングチョウ、ウラナミシジミの6種のチョウを確認しま
 した。この中では、ウラナミシジミの個体数が多く、イナ
 カギクなどの花から吸蜜していました。ウラナミシジミ以
 外は、成虫で越冬する種です。



ウラナミシジミ

バッタ目
 鳴く虫の数も減り、ヒロハネヒナバッタ、カンタン、マ
 ダラスの3種の鳴き声だけを聞きました。写真は、大阪
 府レッドリストで準絶滅危惧に指定されているヒトコブサ
 サキリモドキです。2010年から定期調査をしていますが、
 11月にこの種を確認したのは初めてです。



ヒトコブササキリモドキ

カメムシ目
 この時期になると、カメムシの仲間が目立ちます。写真
 はヒメハサミツノカメムシが飛び立つ瞬間です。背面の赤
 色が鮮やかです。その他、ミヤマアワフキ、オオトビサシ
 ガメ、ツマジロカメムシ、クチフトカメムシ、セアカツノ
 カメムシ、ナシカメムシなどを確認しました。



ヒメハサミツノカメムシ

ハエ目
 ブナハキバツノフシとブナハウラカイガラフシという虫
 こぶは、寄主がタマバエ科だとしか分かっていないようで
 す。陽気のせいかわかりませんが、オオハナアブ、キゴシハナアブ、クロ
 ヒラタアブ属の一種、セスジハリバエ、ヨコジマオオハリ
 ハエなど、多数のハエの飛翔と吸蜜を見ました。



ブナハキバツノフシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2015年12月）

2015年12月2日 天候：晴れ 調査者1名
 先月はまだ紅葉があったのですが、もうすっかり落葉し
 てしまいました。この日は気温が13℃あり、まったく寒
 くなく、冬という感じもしません。でも、虫はほとんどい
 ないので、中途半端な気持ちが残りました。



チョウ目 チョウ類1種
 木柵に止まっているテングチョウを1匹だけ見ました。
 これから長い冬を越さなければいけません。生きていくの
 も大変です。ガ類では、ナカオビアキナミシヤクがブナ林
 の中をフワフワと飛んで行きます。発生時期が遅いガの一
 つです。



テングチョウ

ハチ目
 シダクロスズメバチがアカマツの落葉の隙間で、羽音を
 させていました。もう体力が尽きて、飛べなくなったもの
 だと思います。採集後にすぐに死んでしまいました。体長
 から判断して、女王だと思いますが、越冬する体力を付け
 られなかったのかもかもしれません。



シダクロスズメバチ

カメムシ目
 カメムシの仲間は、成虫で越冬する種の割合が他のグ
 ループより高いのですが、この日はミヤマアワフキしか確
 認することができませんでした。ミヤマアワフキに似た種
 があるそうなので、これまでの同定を再検討する必要があります
 （当館の標本にコミヤマアワフキはありません）。



ミヤマアワフキ

植物
 虫のネタが尽きてしまったので、植物を1種だけ紹介し
 ます。林道の道端に赤い実が立っていて、遠目にはツルリ
 ンドウだと分かりませんでした。他の植物に巻き付いた時
 には実を垂れさせてもいいけど、地面を這うことになった
 場合は実を立てることが分かりました。



ツルリンドウ

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2015年12月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年4月）

2016年4月26日 天候：晴れ 調査者1名
 ブナの芽が少し開いていました。草本では、ニリンソウ、ヤマルリソウ、イズミカンアオイ、ユキザサ、チゴクリ、エイザンスミレ、ナガバタツボスミレなどの花が咲いていました（下段で少し紹介しました）。



チョウ目 2種

チョウ類では、ルリタテハとテングチョウを確認しました。カ類では、大阪府レッドリスト・準絶滅危惧のブナアオシャチホコを見つけたのですが、山頂神社下にある小屋のアルミサッシの窓枠に止まっていたので、その場では「雰囲気」の出ない写真しか撮れませんでした。



ブナアオシャチホコ

カメムシ目

駐車場の小さな水たまりにヒメアメンボとヤスマツアメンボがいました。これまで山頂付近のアメンボの採集記録はありませんでした。今回、約20匹を確認し、山頂にも飛来することが分かりました。ヤスマツアメンボは大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されています。



ヤスマツアメンボ

ハチ目・ハエ目

ハチ目では、コマルハナバチとニホンカブラハナバチ以外は、アリの6種確認しただけでした。ハエ目では、ナミホシヒラタアブの飛翔が目立ち、ピロードツリアブやオオクロバエを少し見ました。その他、多数の小さなハエが飛翔しているのですが、種名は分かりません。



コマルハナバチ

植物

昆虫が少なかったので、咲いていた花の写真を少し紹介します。イズミカンアオイの花は株の根元、地面上にあります。



ニリンソウ



イズミカンアオイ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年5月）

2016年5月19日 天候：晴れ 調査者1名
 ブナの葉がかなり茂ってきて、林内は少し暗くなりました。春の花は少なくなり、鳥も見にくくなりましたが、虫の数は、コウチュウ目を中心として一気に増えました。右の写真は植林されたブナの葉です。



チョウ目 8種

チョウ類は、オナガアゲハ、カラスアゲハ、アオスジアゲハ、クロヒカゲ、コムシジ、テングチョウ、アオバセセリ、コチャバナセセリの8種を確認しました。オナガアゲハは、アキグミの花によく来ていました。カ類では、ウスベニヒゲナガの写真を撮ることができました。



オナガアゲハ

カメムシ目

先月に引き続き、駐車場脇にできた水たまりにいたヤスマツアメンボの写真を紹介します。先月よりは数が減っていました。ハルゼミが今年も鳴き出しました。その他、ミヤマアワフキ、フチヒシウカ、ムラサキナガカメムシといったお馴染みのメンバーを確認しました。



ヤスマツアメンボ

コウチュウ目

駐車場脇の水たまりにマメゲンゴロウも数匹来ていました。20種以上のコウチュウが確認されましたが、その中では、ヒメテオキノコムシ、コエンマムシ、ミヤマベニコメツキ、クリアナアキソウムシ、ツヤケシハナカミキリが、自然遊学館に標本が少くない種でした。



ヒメテオキノコムシ

シリアゲムシ目

シリアゲムシ科の中に同定の難しいグループがあり、右の写真の候補は、フライヤシリアゲ、キアシシリアゲ、ホソマダラシリアゲの3種です。この中では、キアシが斑紋の違いから、外れそうです。澤田義弘さんにホソマダラシリアゲと同定してもらいました。



ホソマダラシリアゲ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年6月）

2016年6月21日 天候：晴れ 調査者1名
 ブナ林は新緑と深緑の間ぐらいという感じです。右の写真は林床で咲いていたササユリです。先月よりも虫の数が増え、それらを追いかけるニホントカゲやカナヘビの姿がありました。



チョウ目 12種

チョウ類の成虫は、ジャコウアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、ヒメジャノメ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、ヒオドシチョウ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ムラサキシジミ、ウラナミシジミの11種、その他、オナガアゲハの幼虫を確認しました。



オナガアゲハ幼虫

カメムシ目

ハルゼミが5個体ほど鳴いていました。駐車場脇の水たまりではヤスマツアメンボがいました。その他、ヒメシロオビアワフキ、クサビカタピロウカ、オオトビサシガメ、ツノアオカメムシ幼虫、セアカツノカメムシ、ハリカメムシなどを確認しました。



ツノアオカメムシ幼虫

コウチュウ目

駐車場脇の水たまりにマメゲンゴロウもいました。ヒゲブトクチブトソウムシは図鑑では「少ない」と書かれていますが、山頂ではちょくちょく見かけます。ヤマノイモの仲間に来るキイロクビナガハムシは真っ赤な色がよく目立ちます（注：もっと赤色が濃いアカクビナガハムシが別にいます）。



キイロクビナガハムシ

バッタ目など

ヒロハネヒナバッタの鳴き声が聞こえます。ヤマトフキバッタはまだ幼虫です。木道の手すりの上は昆虫を見つけやすいポイントです。エダナナフシ幼虫は「枝」に似せることができず、じっとしていました。写真は、イタドリの上に乗っていたコバハサミムシです。



コバハサミムシ

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年7月）

2016年7月14日 天候：晴れ 調査者1名

木々の緑がさらに濃くなり、林の中で咲いている花はほとんどありません。林縁で活動する昆虫は、さらに多くなりました。ウグイスの鳴き声がよく聞こえ、カッコウやヤマガラスの鳴き声も少し混じっています。



チョウ目 9種

チョウ類の成虫は、モンキアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、ヒカゲチョウ、サカハチチョウ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ルリシジミ、ベニシジミを確認しました。山頂のトイレの壁にいたウスグロフトメイガは、これまで自然遊学館に標本がない種でした。



ウスグロフトメイガ

バッタ目

木の上で鳴いているのはホソクビツユムシでした。30個体ほどの鳴き声を聞きました。山地性ながら山頂付近にそれほどいる種とは思ってなかったので、意外でした。ツユムシの仲間て屋に鳴くのも変わった習性です。その他、林縁の草上ではナキヤナゴが鳴いていました。



ホソクビツユムシ

カメムシ目

ハルゼミ、エソゼミ、ニイニゼミ、ヒグラシの鳴き声を聞きました。同じ日に、この4種の鳴き声を聞いた記憶はありません。その他、テングアワフキやトゲカメムシなどを確認しました。オビカワウンカという山地性の種は、これまで自然遊学館に標本がない種でした。



トゲカメムシ

ハエ目

ミスジガガンボは体長4mmほどの小さなガガンボです。この日は2個体撮影できました。まわりつくウシアブを追い払おうとして振った網に、自然遊学館に標本がないクロベッコウハナアブという大型のハナアブが入っていました。びっくり。



ミスジガガンボ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年8月）

2016年8月4日 天候：晴れ／くもり 調査者1名

山頂の気温は25℃で、下界よりも10℃ほど低く、日陰では涼しさを感じました。写真は、サクラ類の葉裏にいたガの幼虫です。似た幼虫はアカシデの葉にもいました。その他、種名が分からないガの幼虫を5種ほど見ました。



チョウ目 12種

チョウ類は、モンキアゲハ、オナガアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、コムシジ、イチモンジチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ダイミョウセセリ、コチャバネセセリを確認しました。ガの幼虫で種名が分かったのは、カクモンヒトリだけでした。



イチモンジチョウ

カメムシ目

エソゼミ、クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ニイニゼミの6種のセミが鳴いていました。おやっ!と思ったのは、クマゼミの鳴き声です。1個体だけ鳴いていました。2008年の調査開始以降、山頂付近で初めての確認ですが、1995年に羽化殻の記録がありました。



ヒグラシ

トンボ目

昨年8月にミヤマアカネを確認して、夏には山頂付近で「避暑」をして秋に木積などの里に降りていくのかなと推測しました。今年も8月にミヤマアカネを山頂で確認し、避暑説が支持されたようです。ただ、和歌山側からも避暑をしに来るのなら、もっと多く見てもいいはずなのですが。



ミヤマアカネ

バッタ目

ツマグロバッタとヤマトフキバッタは、成虫になっていました。先月、30個体ほどが鳴いていたホソクビツユムシは、1個体だけ鳴き声を確認しました。大阪府レッドリスト・準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキは1♀だけ確認しました。ハヤシワマは、幼虫を確認しました。



ヒトコブササキリモドキ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年9月）

2016年9月15日 天候：くもり／小雨 調査者1名

Aコース終点近くのブナの立ち枯れ木が倒れて、斜面をすべり落ちていました。ツキヨタケの観察ポイントが減ってしまいました。美しいと言われることがあるイシサワオニグモを5年ぶりに見ました。



チョウ目 9種

スジグロシロチョウ、キタキチョウ、ヒカゲチョウ、クロコノマチョウ、コムシジ、アカタテハ、アサギダラ、テングチョウ、ヤマトシジミの9種のチョウを確認しました。3年前、標本がないのに写真だけを撮ったヒメクロイラガ幼虫を同じ場所で見つけ、採集することができました。



ヒメクロイラガ幼虫

カメムシ目

エソゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、チツゼミの4種のセミが鳴いていました。写真のウシカメムシは、二色から和泉葛城山の山頂付近まで、市内至るところで見られます。その他、ハサミツノカメムシ、ヒメハサミツノカメムシ、モンキツノカメムシなどを確認しました。



ウシカメムシ

コウチュウ目

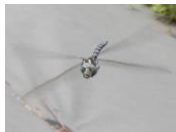
マイマイカブリの幼虫がギョウキマイマイの生体を襲っていました。登山道の木柵には、大阪府レッドリスト・準絶滅危惧のセタカテントウダマシが止まっていました。写真のオオキイロマルノミハムシは、これまで自然遊学館に標本がなかった種です。



オオキイロマルノミハムシ

トンボ目

写真のオオルリボシヤンマも準絶滅危惧に指定されています。草が生えないように敷かれた大きなシートの上で、3♂1♀を見ました。オスどうしは絶えず「けんか」をしていて、メスはシート上にできた水たまりに産卵していました。その他、ウスバキトンボが群れていました。



オオルリボシヤンマ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年10月）

2016年10月6日 天候：くもり 調査者1名
 山頂の正午の気温は16℃と、やや肌寒い感じですが。先月末にキノコがたくさん出ていて、この日もたくさんあるかなと思っていたら、半分以下になっていました。特に写真のタマゴタケは10分の1程度に減っていました。



チョウ目 チョウ類10種
 キタキチョウ、ヒカゲチョウ、アカタテハ、キタテハ、ミドリヒョウモン、アサギマダラ、テングチョウ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリの10種のチョウを確認しました。ガ類の中では、ヘリグロヨツメアオシヤクがやや珍しい種かもしれません。



ミドリヒョウモン

バッタ目
 クチキウマ属は、産卵管で種を見分けるので、写真のようなオスだと、見た目だけでは種まで分かりません。ウマオイ属は、鳴き声で聞き分けるので、メスだと種までは分かりません。どちらも残念でした。その他、クサヒバリ、ヒロバナヒナバッタ、ヤセヒシバッタなどを確認しました。



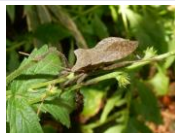
クチキウマ属の一種

コウチュウ目
 大きなオトシブミだと思ったら、オトシブミという種名のオトシブミの仲間でした。トホシテントウかなと思ったら、シロシユウシホシテントウの紅型でした。写真のタテスジゴマフカミキリは、これまで自然遊学館に標本がなかったものです。



タテスジゴマフカミキリ

カメムシ目
 ヒメハサミツノカメムシ、モンキツノカメムシ、エサキモンキツノカメムシ、セアカツノカメムシの中で、一番多かったのはヒメハサミでした。ふつうならセアカなので、意外でした。この時期に林縁で群飛しているのは、オビヒメヨコバイです。体長は4mm程度です。



オオヘリカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年11月）

2016年11月10日 天候：くもり 調査者1名
 山頂の正午の気温は2℃で、先月よりかなり寒くなりました。林内では、黄色くなった葉が目立ち、赤色の葉は少しです。虫もキノコも少なくなりました。代わりと言っては何ですが、小鳥たちは見つけやすくなりました。



チョウ目 チョウ類1種
 チョウ類はヤマトシジミ1種、2個体を確認しただけでした。いずれも写真のように、石の上にじっとして、裏面の模様が背景に溶け込むようでした。ガ類はまったく見ませんでした。



ヤマトシジミ

カメムシ目
 もう少し越冬前のカメムシを見ることができるかと思ったのですが、林内では、セアカツノカメムシとミヤマアワフキだけを確認しました。日向の道ばたにイヌホオズキがあり、イヌホオズキクロアブラムシとトビイロケアリが共生していました。



セアカツノカメムシ

コウチュウ目
 ヒカゲノイノコズチの茎にシロシユウゴホシテントウが止まっていた。これまで館に標本がなかった種で（貝塚産テントウムシ30種目）、大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されている種でした。その他、ヒメツチハンミョウやヨツコブゴミシダマシなどを確認しました。



シロシユウゴホシテントウ

ハサミムシ目
 めくった石の下にキアシハサミムシがいました。自然遊学館のまわりにも普通にいる種です。バッタ目、カマキリ目、ナナフシ目はまったく確認せず、直翅類に関しては、物足りない結果になりました。



キアシハサミムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2016年12月）

2016年12月6日 天候：晴れ・くもり 調査者1名
 プナの葉は落ちました。山頂の正午の気温は5℃で、それほど寒さを感じません。でも、虫の姿はほとんど見えません。どうなることかと思ってスタートして、結局、わずか5種の確認に終わってしまいました。



チョウ目 チョウ類0種
 チョウ類はまったく確認できませんでした。山頂のトイレの壁にナカオビアキナミシャクが3匹とまっていた。この時期の日中に飛翔することもあります。この日は飛翔を見ることはありませんでした。



ナカオビアキナミシャク

ハチ目
 ムネアカオオアリが1匹だけ、木製の手すりの上にはいました。登山道脇の石をひっくり返して、ハヤシクロヤマアリの巣を見つけました。ハチ目の確認は、この2種のアリだけです。



ムネアカオオアリ

コウチュウ目
 倒木をひっくり返すと、ニセクロホシテントウゴミシダマシが20匹ほど固まっていた。冬越しの場所を見つけたのでしょうか。コウチュウ目も、これだけでした。



ニセクロホシテントウゴミシダマシ

トビムシ目
 トビムシの仲間が、ふつうの昆虫と違う点は、腹部先端にある跳躍器のほか、腹部の節の数が少ないことです。ヤマトトビムシの一種が100個体ほど、土や木ではなく、石の表面を這っていました。



ヤマトトビムシの一種

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2016年12月）